

六月二十三日実施予定が、悪天候により延期になり、

本日開催となりました。塩沢登山口七時三十分集合。



八月四日(日)

春の僧悟台登山道整備

報告・〇〇〇〇さん



第430号
発行所 郡山市喜久田町
あだたら山の会

●編集部連絡先
二本松市郭内一五15
0243(22)4245
FAX可・渡辺正

参加者は、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、十一名の参加でした。(氏名記載順)あだたら山の会名簿。二〇二四年四月のもの。準備の段階から、湿度が高く蒸し暑い状況でしたので、事前に準備しておいたスポーツ飲料を一気飲みして望みました。今回は、草刈り作業でしたので、ハチに刺される危険性が高くなります。個人的な話ですが、子供の頃、アシナガバチに数回刺された、二十年前にスズメバチに刺されました。昨年、ハチアレルギー抗体検査をしたところ、偽陽性の判定で、エピペンが処方されました。今回もしっかり持参したのでおみましました。過去にハチに刺された方は、十分に気を付けて欲しいと思います。〇〇〇〇会長は、コンパクトに収納可能な刈払機(会で購入。新品)を背負子に設置。〇〇〇〇さんは、会で購入した新品の刈払機、私は、私物を持参。その他の方は、刈込鋏、カマなどを手に取り、七時四十分に出発しました。馬返し分岐を右折。

四月二十九日湯川溪谷登山道整備で設置した、丸太三本橋は、安定性も良く安心して渡れました。いよいよ、急登の始まりです。刈払機を持っての登山は初めてです。重心がとれず歩き難い。私は、両肩掛けベルトを使用していたので、何とか歩けましたが、〇〇〇〇さんは、首にかけるベルトだったので、首が痛くなり大変だったと思います。〇〇〇〇さんも協力し何とか乗り切りました。刈払機の刃を付けたままの移動は、身体重心が前方になるので、刃が露出しているのが危険です。刃はザックに収納し、刈る時、セットするのが良いかもしれません。出発から、一時間後、二つ目の沢に差し掛かり、〇〇〇〇さんが「この水は飲める」と言われましたが、お腹が心配なので下山時に飲むことにしました。九時四十五分見晴台に到着。登山口からここまで、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇



下一本松で作業中



草刈り作業中

刈って頂きました。徐々に笹が生い茂り、藪感が出てきました。笹をかくぐり、十時二十分に僧悟台に着。〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さんは、僧悟台周辺と下山コースをお昼まで草刈り。その他の方は、僧悟台より二十分上がった所から下山しながら草刈り開始。予想よりも、笹が硬く茂みも濃かったので難渋しました。山道に覆いかぶさった笹は、奥まで刈らないと上手く刈れないと会長より助言を頂きました。笹用の刃に替えて本当に良かったです。刈った草の片付けも大変だったと思います。お昼頃に僧

悟台に到着。おにぎりを食べる方、ラーメンを食べる方、パンを食べる方、栄養ドリンクを飲む方など色々です。効果的なカロリー摂取は、何が有効なのかな？と思いながら昼食時間を過ぎました。トマトやキュウリも美味しく頂きました。昼食終了し下山しながら草刈り再開。ポツポツと雨が降ってきて大雨になりました。すでに汗でビシヤビシヤでしたので、天然のシャワーを浴びる事になりました。大雨の段階で草刈り中止。粘土質の道なので、滑りやすく転倒者多数。大きな怪我がなかったのは流石です！蒸し暑さは、少々緩和されましたが喉はカラカラです。〇〇〇〇さんが「この水は飲める」と言った沢が近づいてきました。ゴクゴク美味しく頂きました(現在でもお腹は大丈夫です)。あと三十分で塩沢登山口です。気をつけながら下山しまし



僧悟台分岐で昼食



登り途中の水場

た。〇〇〇〇会長の解散宣言(五時十五分)。〇〇〇〇さんは、また参加しようと思いついた。帰途をかわり帰路につきました。帰宅後、ザックも服も全て洗濯。心身ともに綺麗になりました。貴重な体験、感謝しております。皆様お疲れ様でした。

安達太良山登山道の 保全に関する現地勉強会

九月三日(月)・(二日目)・(麓山下)

報告・〇〇〇〇〇〇

朝九時、奥岳ロープウェイ山麓駅に集合。講師の〇〇先生、環境省や自治体の方々、あだたら山の会からは〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんの四人が参加。参加者全員で挨拶をして九時二十分、奥岳登山口を出発。旧道を通り勢至平分岐へ向かう。旧道に入り感じた事は以前よりも木の根が剥き出しでいて、歩く道もかなり深くなっている気がした。同行した方々も同じ様に感じていた様だった。元々の登山道が雨等でぬかるんで歩き辛いと、登山者はどうしても歩きやすい所を歩くと、他の人がまたそこを歩いて次から次へと新しい山道が出来てしまう事。冬には霜が土や木の根を持ち上げ、春には解けてしまい根の下が空洞になってしまふ。それ以外にも様々な要因で山や登山道が荒廃していく事、登山道を整備しながら山を元に戻していく為の方法を〇〇先生から教わり、参加者同士でも現状と対策を共有することができた。

予定より少し遅くなったが勢至平分岐に到着、峰の辻分岐へと向かう。くるが

ね小屋が開鎖している為、こちらのルートを利用する登山者が増え、荒廃の進みも早くなっていると小屋の管理者、〇〇さんから報告。こちらも元々の登山道には水が溜まり、やはり新しい道ができていた。〇〇先生が危険なポイントに目印をつけていく。段差も大きく女性や子供には歩いづらいと感じる所もあった。土囊や整備の時にできる枝などを水溜まりや段差に置いて上から流れてくる土砂を貯め、段差を無くしていくという方法を教わった。

を作り階段に水が流れ込まないようにする。十六時頃、奥岳登山口に到着し無事に一日目を終了する事が出来た。

今回の現地勉強会で山や登山道が荒廃する様々な原因、保全作業の手法を学んだ事で今まで自分はこの様な事は考えもしないで山を歩いていた、マナーやルールを守るのとは勿論だけど、山や登山道を荒廃させない歩き方も大切だと気づく事ができた。山を歩く沢山の人がその事を知って欲しいし、伝えていく事も大切だと感じた。今回、現地勉強会に参加して学んだ事を今後の参道整備に活かしていきたいと思えます。

(二〇二四・九・一八)

約一時間遅れで休憩ポイントに到着。昼食を食べ始めると直ぐに雨が降ってきた。峰の辻分岐には行かず



土嚢作り

水溜り

九月三日(火)・(二日目)・(薬師尾根)

報告・〇〇〇〇〇〇

九月三日(火)安達太良山登山道の保全に関する現地勉強会(二日目)に参加しましたので、以下に報告致します。

奥岳ロープウェイ山麓駅に九時集合。参加者は、講師の〇〇さん、福島県自然保護課三名、二本松市観光課二名、二本松市都市計画課一名、安達太良・吾妻自然センター八名、あだたら山の会〇〇会長、環境省裏磐梯自然保護管事務所一名、アジア航測株式会社三名(事業受託業者)計二十二名の参加でした。出発前に講師の〇〇様より、登山道保全に関して目標提示がありました。「山の利用と保全をいかに保つか!」このキーワードを頭に入れないからあだたら高原スキー場を直登開始です。

写真①(登山口より一・二㎞付近)で登山道崩壊のメカニズムの説明がありました。登山者が水筋を避けるように歩き新しい道ができ、そこに水が流れるという悪循環の繰り返しで登山道が崩壊しています。対策は、その場の石を利用し水の流速を抑えること、中央の草を守り続け、植生の回復を図ること(土嚢の役割もする)、写真ではわかりにくいと思いますが、白くなっている土は崩壊が進行

している為、何とかして進行を抑制することです。

写真②(登山口より一・四㎞付近)登山道がえぐられ多数の腐木が破棄されており、登山道崩壊が著しい箇所です。

写真③(登山口より一・五㎞付近)今回の勉強会とは関係ありませんが、あだたら山の会で設置した梯子が、雪の重みで変形してしまいました。十時五十分に薬師岳に到着し昼休憩です。三十分程休憩し活動を再開しました。

写真④(登山口より二・六㎞付近)の状況は、水を避けて歩くので登山道が広がっています。対策は、ロープをはり、外側を歩く範囲を狭める必要があり、シートをひき水抜きも必要になってくると思われれます。

写真⑤(登山口より三・六㎞付近)実際の作業の様子です。登山道を通して水を横断溝により登山道の端に排水します。横断溝には透水管(写真上の黒い管)が設置されています。管には小さな穴があいていますので、効率よく水を吸収し排水できます。作業手順は、

一、横断溝に蓄積されている土を取り除きます(写真は作業後)。

二、残置してあるガラ袋

を回収し麻土嚢袋に詰め替えます。

三、水を登山道路に流さないように土嚢を設置します。その後も、下山しながら数か所補修を行っていき、十四時五十分頃にゴンドラ乗り場に到着。その後、解散となりました。

感想・久しぶりにゴンドラから山頂方面に歩きました。「ロープウェイでのぼるお手軽な百名山」と言われている安達太良山ですが、段差が大きく危ない箇所が多数あります。補修作業を行っていている時に、登山者が通り過ぎていきましたが、段差に足元がとられ、不安定な方が少なくありませんでした。段差も含め登山道の崩壊を食い止める必要性を痛感しました。今更で、何気なく歩いていた登山道でしたが、様々な技術を駆使し沢山の方々に守られていると再認識しました。参加する機会を頂き有難う御座いました。



9月3日、集合写真



写真⑤

写真④

写真③ 会報384

写真②

写真①

九月四日 (水) 安達太良山・夏山遭難救助訓練

報告・〇〇〇〇

【参加者】一班、〇〇〇〇、
〇〇〇〇、〇〇〇〇、
二班、〇〇〇〇、〇〇〇〇、
渡〇〇、〇〇〇〇

【行動】今年は年度の関係
で一月に冬山救助訓練、九
月に夏山救助訓練と二年で
二回続きますが今回はかな
り有用な訓練となりました。
想定としては足を怪我
した人を背負い搬送する内
容で山の会からレスキュー
ネット、ザック&スリング
での二つの背負い方法を説
明、消防からは背負いベル
トの説明。

県警からは背負いザック
の説明と三者三様の方法で
共有でき満場一致でセット
の仕方、背負者の交代しや
すさ、背負った時の負荷と
総合で県警の背負いザック
が良かったです。但し価格
もそれなりに二桁万円との
話で中々に手が出せない金
額でしたが、コンパクトに
もなり非常に良かったです。



当会・レスキューネット (製造終了)



消防・レスキューベルト



県警・レスキューキャリングラック

当日はトレランの大会も
あるがコースと作業場所が
違うので実施。笹山下のル
ートは洗堀が酷く何らかの
対策が必要で先日の登山道
整備勉強会でも今後の整備
方法を検討している模様。
改めて登山道整備勉強会で
学んだ事をみんなで共有し
て簡単な刈払いと洗堀箇所
の土嚢設置を実施。プラ土
嚢も一部を繊維土嚢に入替
えました。数年前に設置
した階段の一番下の段が土

台？ビスが折れており早急
な復旧をしないと足場ごと
崩れる可能性があるのでは
なければ臨時で作業をした
い。あとは分岐ではない分
岐道標の案内板を撤去して
何とか小雨がパラつくぐら
いで作業終了。帰りにラン
ナーと遭遇したがみんな筋
肉量が凄く歩くだけでも辛
いのにはなるな。ト
ップランナーは六時間ぐ
らいでゴールしたそうで同
じ人とは思えない。



カメラも入れて、8名参加

九月八日 (日) 笹山下登山道整備

報告・〇〇〇〇



所在地銘板取り外し



土嚢作り



階段破壊状況



木の繁りで道狭い

九月十日 (火)

保育園ガイド

報告 □□□□



14時21分、無事に下山した

山の会事務局から安達太良山登山のFAXが入り、「ガイド」の依頼、保育園の園児と保護者、職員十六名の引率と案内登山で毎年の恒例で平日であるので会員間で調整して、協力参加している。実施は九月十日(火)奥岳集合八時十五分、売店前集合。荒天時の予備

日も計画書にありましたが、当日はくもり、午後から晴れ、最高気温は三十三度の天気予報！が前日にあり、予定通り決行となり事務局から□□さんと私(□□)が参加、奥岳登山口売店前、ロープウェイ乗り場前広場に七時前に到着、平日であり、駐車場はまだ二

十台位で、ロープウェイ運行会社の職員さん達も出勤してました。山行の打合せ注意点を話しているうちに早い保護者、園児さん達が二、三組が集まってきて後には担任職員さんが同行しさっそく準備に入り集合時間前には早々と全員集合、職員さんの点呼も終わり□□さんと本日の参加者の変更、計画書の確認の結果、保護者一減、職員一増、園児は変更なしの確認をしました。定刻に早いが園長先生よりあいさつがあり、登山の注意点留意などの説明があり、園児達は元気な声で返事をしていて、当山の会の紹介もあり□□さんから登山で気をつける事など安全講話があり、挨拶、私も準備してなかった

ので、簡単ではありましたが、「元氣いっぱい登りましょう！頑張ろう」と激励挨拶のことはとしました。担任先生よりお話説明があり、さっそく園長先生より「これより出発します！」と話され登山開始。□□さんと保護者はひと足早く、私と担任職員、園児さん達は後発、離れず付かず、見え隠れ程よい距離を取り、自分で登る、自立を促す作戦です。

ロープウェイ薬師岳山頂駅着、担任先生が点呼し各園児の確認、私も人数の把握確認異常なし。私、先導、担任先生園児七名と職員二人出発。九時前木道よりゆっくりと歩く。直ぐにリンドウの歓迎があり、左右に大勢で園児達の声に聴えてくれている様である。リンドウも多くの種がある。黄色のアキノキリンソウも見付けて園児達キリン、キリンと口を揃えて覚え易く人気一番である。右側には赤い実などナナカマドも見付け山はチョッピリ秋へと一歩始まる。ワイワイとたちまち仙女平分岐まで、保護者さん達の休憩に合流。一緒に水分補給一休みになる。余談だがここ仙女平分岐から大玉村奥民の森「表登山口」は往復六時間コース、二個所の展望岩場があり数回単独行したが登る人も少なく自然が残されている。登山道は私達の山の会でも秋の登山道整備刈払いをロープウェイ最終日頃に

行っており私も二百段下の坂の展望地まで下がって下からの刈払いをした時もあった。さて休みも終えて保護者さん達はスタート、園児達も皆元気いっぱいだ。流石に荒れた登山道を巧みに登って来る。歩き方ウマイネーと誉めると名倉山を舞台に年二回登山を楽しんでいると職員さんから話され園児達は遠くまで見て楽しいと声を合わせて元気で仲良しの年長組六才兒だ！、仙女平も眼下に納め急坂の難所も手・足の四点支持と

面白い様に流れた階段も飛び箱もやっていると登って来る。見晴らしが良くなったので、遠くの山を望みながら水分補給、トンボが二匹飛来手先で喜んでいた。今年は少ない様な気もしつつ登山道もススキが一面に広がって山頂が見えて山頂の赤い登山者を見付けて、「お父さん達かなあ？」と追いかけるように登り、予定より早々と山頂に着いた。全員の点呼、体調確認、保護者さんの出迎え、よく登った。頑張ったねと記念撮影。揃っての昼食会となる。私達もサイドで昼食、すごく気持ちが良い、上空は「智慧子」の空、本当の空であった。今日の山頂は特に穏やか無風で展望は抜群！、よく見ると大雲海がはるか遠くまで広大に東から西まで一八〇度以上も首を横に振ってもまだ続く雲海！、三〇〇〇級の山の前後に現れる珍しい現象だ。八溝山、日光連山、男体山、白根山、皇海山上空か！、先は県境をはるかに遠くだ、上空は青空、中間が同じようなポコポコとした雲海、下は山並み、ニコンの双眼鏡「口径六十」八倍の明るいレンズ」を持参すべきだった！。安定して大雲海も三十分程続き、下山時時にはいつもの見慣れた水蒸気雲に変わっていた。ゆっくり快適に過ごした保育園、登山の昼食も終

面白くもやっていると登って来る。見晴らしが良くなったので、遠くの山を望みながら水分補給、トンボが二匹飛来手先で喜んでいた。今年は少ない様な気もしつつ登山道もススキが一面に広がって山頂が見えて山頂の赤い登山者を見付けて、「お父さん達かなあ？」と追いかけるように登り、予定より早々と山頂に着いた。全員の点呼、体調確認、保護者さんの出迎え、よく登った。頑張ったねと記念撮影。揃っての昼食会となる。私達もサイドで昼食、すごく気持ちが良い、上空は「智慧子」の空、本当の空であった。今日の山頂は特に穏やか無風で展望は抜群！、よく見ると大雲海がはるか遠くまで広大に東から西まで一八〇度以上も首を横に振ってもまだ続く雲海！、三〇〇〇級の山の前後に現れる珍しい現象だ。八溝山、日光連山、男体山、白根山、皇海山上空か！、先は県境をはるかに遠くだ、上空は青空、中間が同じようなポコポコとした雲海、下は山並み、ニコンの双眼鏡「口径六十」八倍の明るいレンズ」を持参すべきだった！。安定して大雲海も三十分程続き、下山時時にはいつもの見慣れた水蒸気雲に変わっていた。ゆっくり快適に過ごした保育園、登山の昼食も終

又来るのでさよならくバイバイと挨拶。□□さんが保護者さん休憩中に迎えに上がって来たとき、あくおじさんだくと見つけ一緒に下る。仙女平分岐、皆で休みむ。一足早く保護者さん下山、園児達もまた足りない様に下山、ロープウェイを楽しみ、皆、名残惜しそうに出発地に元気に下山した。園長先生よりの挨拶と園児、職員さんからの「ありがとうございました」の感謝の言葉で事務局□□さんと有意義な一日を過ごして頂いた。又早くから渡辺さんには、詳細マップ作成など段取りまで何かとお世話になりました。

又来るのでさよならくバイバイと挨拶。□□さんが保護者さん休憩中に迎えに上がって来たとき、あくおじさんだくと見つけ一緒に下る。仙女平分岐、皆で休みむ。一足早く保護者さん下山、園児達もまた足りない様に下山、ロープウェイを楽しみ、皆、名残惜しそうに出発地に元気に下山した。園長先生よりの挨拶と園児、職員さんからの「ありがとうございました」の感謝の言葉で事務局□□さんと有意義な一日を過ごして頂いた。又早くから渡辺さんには、詳細マップ作成など段取りまで何かとお世話になりました。

又来るのでさよならくバイバイと挨拶。□□さんが保護者さん休憩中に迎えに上がって来たとき、あくおじさんだくと見つけ一緒に下る。仙女平分岐、皆で休みむ。一足早く保護者さん下山、園児達もまた足りない様に下山、ロープウェイを楽しみ、皆、名残惜しそうに出発地に元気に下山した。園長先生よりの挨拶と園児、職員さんからの「ありがとうございました」の感謝の言葉で事務局□□さんと有意義な一日を過ごして頂いた。又早くから渡辺さんには、詳細マップ作成など段取りまで何かとお世話になりました。

又来るのでさよならくバイバイと挨拶。□□さんが保護者さん休憩中に迎えに上がって来たとき、あくおじさんだくと見つけ一緒に下る。仙女平分岐、皆で休みむ。一足早く保護者さん下山、園児達もまた足りない様に下山、ロープウェイを楽しみ、皆、名残惜しそうに出発地に元気に下山した。園長先生よりの挨拶と園児、職員さんからの「ありがとうございました」の感謝の言葉で事務局□□さんと有意義な一日を過ごして頂いた。又早くから渡辺さんには、詳細マップ作成など段取りまで何かとお世話になりました。



11時37分、山頂で記念撮影

九月八日 (日)

登山教室 (実践)

一切経・魔女の瞳



山頂、山形山、酸ヶ平避難小屋で昼食した。経路、魔女の瞳、一切経を学び、鎌沼に戻る。予定より一時間オーバーしたが無事登山教室は終了。

【参加者】□□□□、□□□□、□□□□

【行動】道の駅つちゆ八時集合、九時鬼平駐車場出発、酸ヶ平避難小屋經由一切経山、山頂の紅葉にはまだ早い。魔女の瞳は綺麗に輝いていた。

特徴ある一から十までの地図特用の場所を現地を確認し、登山道分岐点でコンパスを正置し、進むべき道決定し、自分が恒に何処に射るのかを把握して歩く事



骨折処置



松葉杖



ツェルトの使い方

- ・三角巾の使い方
- ・圧迫止血法
- ・足首捻挫の対応
- ・腕の骨折の処置
- ・ストックを使用した松葉杖の作り方
- ・ツェルトの使い方

『セルフレススキューの実践』

九月一日 (日)

個人山行、安達夫良山へトレッキング

報告 □□□□



「八の字」のアサギマダラ



現在の、くろがね小屋

九月の登山道整備は、カゴ山ルート、今の私、峰の辻まで登ることができた。九月一日、奥岳九時入山する。入山届は用紙が無く、無届で入山する。鳥川を過ぎると一台の車、小屋の車で今日は小屋のゴミを下ろしとの事、馬車道は工事も終わり砂利も敷かれ段

十二時半、峰の辻へ出発、まもなく胸が苦しくなり脈も早くなる。持参している薬を飲み少し休み下山する。小屋午後一時、今度が最後と小屋の車が上がって来た。今回が最後だと言っていた。途中アサギマダラに逢えて良かったと礼を言いた。下山途中何があっても小屋の車の上にいるので安心して馬車道を下る。鳥川で、小屋の車、「体に気を付けて」と追い越し行く。駐車場でゴミを下ろした小屋の人達と手を振り「またね」と別れる。今回の山行で体力の低下、持病のおそろしさを知った。これからは無理をせず、十二時山頂を心がけ、今少し楽しもうと思う。

事一九五五年大分県生まれ、子供の頃から山を始め同志社大学在学中にはアラスカへイブ峰遠征、一九八二年に中国四川省ミニヤコング峰(七五五六)に頂上目前にして遭難し行方不明となり、遭難十九日後、地元の人により発見され生還するが、両手指と両足を膝下十五センチより切断し五百日の闘病生活を社会復帰する。一九八四年会社勤め傍ら義足で登山を再開し、各地の山を登り、スキーも始め冬山も始めた。一九九五年義足特注のピッケルで念願のヒマラヤ八〇〇〇峰シシャパンマに遠征する。今は千葉に転居し千葉支部で活動している。二〇二〇年には日本山岳会百二十年記念事業で東ネパール、カンチェンジェンガ周辺に参加したとの事。映像パネル等と話なので、耳の悪い私にも楽しむことができた。帰り福島四十分の電車ホームに入ると、福島郡山間大雨のため運転見合わせの放送、福島駅で逢った城

九月十五日 (日)

登山家、講演会

報告 □□□□

九月十五日、福島のコラツセふくしまで、開場十三時三十分、講演十四時〜十九時

また登る 生きて還って

松田宏也 講演会

9月15日 14:00 - 16:00

会場 福島県民会館

料金は1,000円

申込 電話 0246-222-1111

申込 福島県民会館

定員 200名程度

主催 公益社団法人日本山岳会 福島支部

050-2955-4063

山岳日刊10周年記念事業

九月十五日、福島のコラツセふくしまで、開場十三時三十分、講演十四時〜十九時

ワイド

9月24日、福島民報記事

避難からの生還語る

登山家松田宏也さん講演会

講演会が好評で、会場は満員

松田さんは、一九八四年、中国四川省のミニヤコング峰(七五五六)に遭難し、行方不明となり、十九日後、地元の人により発見され生還した。遭難時の体験や、登山の楽しさについて話した。

講演会は、福島県民会館で行われ、多くの登山愛好者が参加した。松田さんは、遭難時の体験を詳しく語り、登山の楽しさや危険性についても話した。

講演会は大成功を収め、会場は満員だった。松田さんは、多くの質問に丁寧に答えてくれた。

講演会の模様は、福島民報に掲載された。

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのですが、手書きも歓迎、FAXも受信できます。

より頂き、□□□□さんと二本松駅で待ち合わせ十二時四十分の電車で福島へ。福島駅で□□□さんと会い三人での行動となる。講演十五分前には会場六十〜七十%位は入っていた様だ。□□□氏は日本山岳会の理

山の木も枝が増え、葉の繁りも強くなり、一回り大きくなって、登山道狭くなってしまっている。世界が「熱帯」に近づいている気がする。

◆九月十七日福島民報「みんなの広場」□□□□さん投稿、「暮への熱い思いよみがえる」。

◆今日は十月一日、会報完成。二本松では十月はお祭りなど始めから行事盛り沢山。空く時間など無い。少しほっとした。

◆今年の九月は暑かった、最高気温が三十度越えの日十三日もあった。去年は十六日だったが、なぜか去年より暑かった。一昨年は七日だったから、「倍の暑さ」が続いている。

編集後記 四三〇号